

## 都市空間におけるまちかど空間の把握

|                 |     |        |
|-----------------|-----|--------|
| 玉野総合コンサルタント株式会社 | 正会員 | ○成谷 博光 |
| 大阪工業大学          | 正会員 | 田中 一成  |
| 大阪工業大学          | 正会員 | 吉川 眞   |

## 1. はじめに

近年、日本では地域コミュニティの希薄化が問題となっている。特に都市部では、治安の悪化や災害などの状況に対応する地域コミュニティ機能の低下、地域の特色・文化・観光資源が損失する可能性、ひきこもりや高齢化などのローカルな問題への対応が困難になるといわれている。これらのような問題に対する対策として、さまざまな手法を用い地域住民が交流するための場を設けることにより、地域コミュニティの再生に向けた取り組みが図られている。また、地域コミュニティに影響する要因として、都市構造の変化や人口流入、産業構造の変化と経済競争の激化などさまざまな要因が指摘されており、さまざまな観点から地域コミュニティを再生する試みがなされている。

## 2. 研究の目的と方法

本研究では「まちかど空間」に着目し、都市空間における地域コミュニティの場のひとつである現代のまちかど空間を把握することを目的とする。出口・森・柏原らが行った「街角」のあり方に関する研究では、まちかどが多くの人に街角のひとつとして認識されている以上に交流の場として生活に密着した場所であることが報告されている。しかし、まちかど空間にはさまざまな種類があり、その空間を特定することは難しい。そこで、本研究では地域との関わりが強い空間に着目し、まちかど空間としての抽出を試みる。具体的には、基礎調査に基づき地域の住民（生活者）が頻繁に利用し、生活に密着していると考えられる空間と、懐かしさや親しみを感じる身近な空間を把握することによって、地域住民との関わりが強い場所の特定を試みる。

分析方法としてはまず、地域住民が頻繁に利用する空間を把握するために、暮らす上で必要な日用品を販売する商業施設に着目し分析を行っていく。具体的には、商業施設を販売品別（買廻品を含む）に分類し、それぞれの店舗が集積している場所を比較することによって、地域との関わりが強いと考えられる日用品を販売する店舗の分布特性を把握する。さらに日用品を販売する店舗の集積箇所を調査することによって、地域住民が頻繁に利用する空間を把握する。加えて、生活に密着した施設の分布に着目し、最終的には多くの地域住民と関わりのある教育施設等の位置を調査することによって、まちかど空間の把握を試みる。なお、本研究では大阪市北区を対象地としている。

## 3. データベースの構築

本研究では空間的な分析へと展開するため、空間情報システム（GIS: Geographic Information System）を活用する。ここでは、まずデータベースの構築として、Web サービスである i タウンページを利用し、大阪市北区内における店舗の住所情報を取得した。しかし、空間情報技術を活用するには、住所情報から緯度経度情報へと変換する必要がある。そこで、得られた住所情報をジオコーディングすることにより、店舗の住所情報から緯度経度情報への変換を行い、GIS 上へと展開した（図1）。

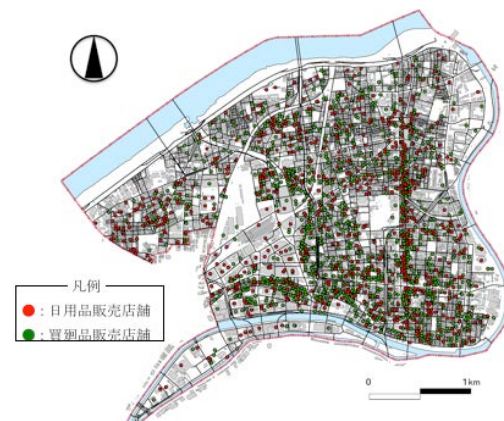


図1 GIS 上に定位した店舗の位置情報

キーワード まちかど空間, 商業施設, 集積, 学校, 公園

連絡先 〒461-0005 愛知県名古屋市東区東桜2丁目17番14号

TEL 052-979-9111

#### 4. 身近な商業空間の把握

構築したデータベースを用いて、GISの機能であるカーネル密度推定法により、大阪市北区内における店舗の集積を販売品別に把握した(図2)。凡例は青色から赤色になるに連れて店舗の集積が高かったことを示している。

その結果、日用品を販売する店舗の集積と買廻品を販売する店舗の集積ではその集積の仕方が異なることを把握することができた。具体的には、買廻品を販売する店舗が特定の地域を中心に集積しているのに対して、日用品を販売する店舗は特定の地域を中心とせず、大阪市北区内のさまざまな場所に集積していることを把握することができた。この結果より、地域住民にとって自宅からの距離を最優先している店舗ほど、特定の地域を中心とせず、さまざまな場所に集積していることがわかる。つまり、日用品を販売する店舗は地域との関わりが強いことが考えられる。

そして、日用品を販売する全店舗の集積と重ねて買廻品店舗の分布を差し引くことでより身近な空間を抽出した(図3)。

その結果、日用品を販売する店舗だけが集積していた場所は、JR大阪駅付近と商店街付近に存在していることを確認することができ、さらに大阪市北区の北部に集積していることを把握することができた。

#### 5. 施設配置とまちかど空間の把握

まちかど空間を把握するために、頻繁に利用する身近な空間内にどのような身近な施設が存在しているのかを調査した。ここでは、子供が頻繁に利用する施設である小学校、幼稚園・保育園、公園を対象に、それらの施設の位置と日用品を販売する店舗の集積を同じ地図上に表現することにより、まちかど空間を把握した(図4)。

その結果、日用品を販売する店舗が集積している場所のすぐ外側、まちはずれとなる位置に本研究で対象とした施設が多く存在していることを把握することができた。このような場所が地域住民にとって親しみがある空間の可能性が高く、地域住民にとってのまちかど空間となっていることが考えられる。

#### 6. おわりに

本研究では地域住民が頻繁に利用する空間と身近な施設を調査することによって、まちかど空間の把握を試みた。この結果、身近な商業地区・商店街をはずれた地区が地域コミュニティにとって重要な場所である可能性が示唆された。今後は、他の施設や利用者の行動等をもっと詳しく分析を行う必要がある。

#### 参考文献

- ・ 出口寛子, 森ゆかり, 柏原士郎: 「街角」のあり方に関する研究- 楽曲タイトルの表現に基づいた分析 -, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 907-908, 2009

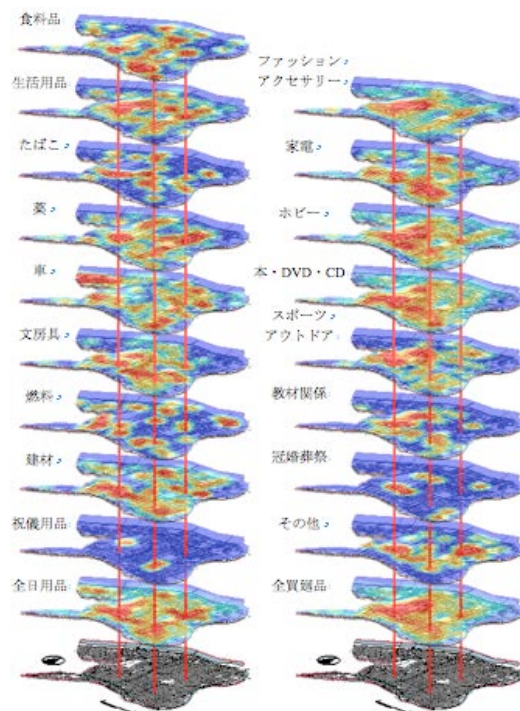


図2 店舗の集積 (左: 日用品, 右: 買廻品)

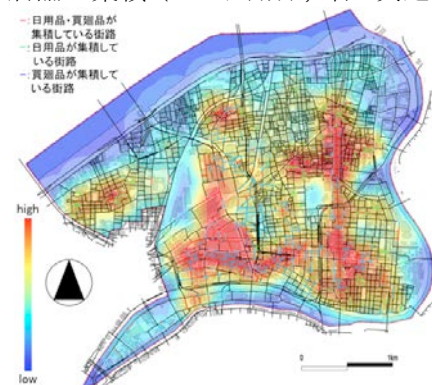


図3 日用品を販売する店舗の集積

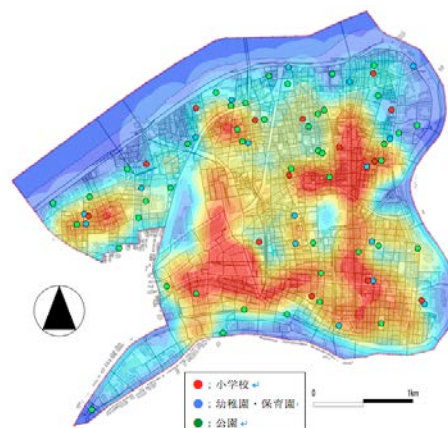


図4 まちかど空間の把握